

「七日市場の歴史（第五十九回）」

地区の話題

曾根原 孝和

観音原(かんのんはら)に石仏等の説明板

4月10日、西木戸観音原の石仏等九基に、七日市場区と「歴史の会」が説明板を設置しました。

ここ観音原は、昭和の中頃までは「馬繕(うまつくろ)い場」(血取り原)とも呼ばれ、年一回馬の蹄鉄打ちや爪切りなどをする場所でもありました。

また、明治17年(1884)にはこの地域の方を中心に、蚕の神様を祀る「蚕影(こかげ)神社」が建立されました。そして、明治34年には石の鳥居も建てられ、この地域では養蚕が盛んであったことがうかがえます。祭りは昭和40年頃まで、講員25人程で行われていました。

石仏等は江戸時代に建立

観音原の九基の石仏等には、道祖神・馬頭観音・観音菩薩像・二十三夜塔・供養塔などの石神仏はじめ、筆塚があります。これら全て江戸時代に建立されたものです。

もっとも古いものは正徳5年(1715)の観音講供養と書かれています。銘文には「同行五十人」とあり、50人の仲間が観音巡りをした順礼記念碑かと思われます。説明板は、近くをお通りの際などにご覧ください。

中野宇蕙(うけい)の筆塚

筆塚は七日市場に一つのもので、形は長方形で、高さ120cm、幅61cm、台高50cmです。碑陰から、門人らが文久3年(1863)に建立しています。

宇蕙の祖先は梓川氷室より移り、代々庄屋をつとめ、宇蕙は庄屋と寺子屋の師匠を兼ねています。明治になり子孫は他郷に移り、遺品・遺墨等殆どなく、詳細は不明です。

ただ、碑表によると、宇蕙は筆と墨を好み和歌や文学をよくし、慎み深い人であったと伝わります。子弟は数百人といわれ、熱心に子弟の指導に努めるとともに、自らも研鑽を続け書物を表したようです。安政2年12月24日に没し、享年68歳の生涯でした。



石仏等の説明版